

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤として、これからの変化する社会に主体的に対応して生きていくための豊かな人間性や、たくましい心身の育成を目指し、次の目標を掲げる。 ○自ら学び、すすんで努力する生徒 ○他を思いやり、礼儀正しい生徒 ○正しい判断力を持ち、心身ともに健康な生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	『関わる全ての人にとって「安心・安全な学校」を目指して』 ○学力と体力を確実に身に付けさせる学校 ○厳しく教え、温かく育てる学校	○生徒一人一人の個性を生かし、伸ばし、夢・目標をしっかりもたせる学校 ○家庭・地域と一体となった教育を展開する学校
○児童・生徒像	○自ら学び、すすんで努力する生徒 ○正しい判断力を持ち、心身ともに健康な生徒	○他を思いやり、礼儀正しい生徒
○教師像	『教育のプロとしての自覚と誇りと情熱をもつ』 ○一歩でも前進する（改革・改善）教師 ○教職員それぞれの個性を生かし、組織的に対応する教師	○教育への情熱を持ち、常に資質向上に努め、真のプロ教師を目指す教師 ○社会的責任を自覚し、生徒・保護者・地域の期待に応える教師 ○ライフ・ワークバランスを推進する教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### <現状>

- ・生徒は全般的に落ち着いて学校生活を送ることができ、授業に取り組む姿勢もある。
- ・PBSを生徒会活動にも反映させ、学校行事も含め、教職員と生徒、生徒相互の信頼関係を構築し、自己有用感が高まってきている。
- ・多くの地域行事に参加・ボランティア活動をさせていただき、多くの生徒が地元で活躍する機会を得ていることで、地域愛や学校愛が高まっている。

### <課題>

- ・足立スタンダードを基に、小中連携を中心とした授業改善をICT機器の有効活用等を行い、一人一人に応じた学力向上に対する組織的取り組みの充実を図る。
- ・PBSをより深化させ、個を大切にした指導感の共有の徹底、生徒一人一人の努力を認め決め細やかな指導の徹底を図っていく。
- ・全ての教育活動で、人権尊重を中心とした視点・感覚を醸成させていくことで、不登校やいじめ防止に資する。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	図書館・ICT機器の有効活用	○	○	○	○	○

## 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった授業改善・学力定着		年度末実施の達成確認テストの正答率前年比+5point 以上		令和7年度通過率 69.4% 正答率は 67.1%であった。		前年度より通過率-1.4%、正答率+1.8%という結果となった。学力向上に向け努力する。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全学年 全教科	通年	①管理職による授業観察・全教員が学習指導案作成(年2回) ②全教員による授業公開実施(年2回)	①年度末達成確認テスト ②授業見学シートの変容	①正答率各学年 65%以上 ②項目平均 50% 上昇	見学シートの改善により比較できなくなってしまった。	PBS の視点を中心とした授業公開を実施し意見を授業者に直接反映するシステムとした。	○
2 継続	主体的に取り組む態度の育成	全学年 全教科	通年	各教科で宿題等の課題設定を行い、生徒が主体的に学習に取り組む仕掛けづくり	①保護者アンケート ②生徒アンケート	①適切に課題を出している 70%以上 ②自学自習のやり方について示されている 70%以上	肯定的な回答が 66.3%であった。	わからないが 12.2%もあったため、適切な周知が必要である。	△
3 継続	サマースクール	全学年 数英	夏季休業日中	①基礎学力の定着 ②小学校・学生ボランティアによる算数・数学補習	事後テスト	正答率 10 ポイント以上上昇	7月実施時の平均点は 27.1 であったが、11月時点では 52.8 と +25.7point であった	継続して、事後指導を進めていく。	◎
4 継続	放課後教室・AIドリルタイムの実施	全学年 全教科	通年	①放課後、AIドリルの時間の設定 ②大学生ボランティアも含めた質問・補充教室の実施	年度末達成確認テスト	正答率各学年 65%以上	正答率 65%以上の達成については各学年で差がみられた。	放課後の補充の時間帯にAIドリルに取り組む習慣ができつつある。	○

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己有用感向上、将来を見通す力向上		生徒意識調査における関係質問項目向上	「自分にはよいところがあると思う。」は区平均に比べ-1.8pointとなっている。しかし「自分が好きですか？」は昨年度に比べ+3.1ポイントであった。	PBS を中心とした取り組みで、昨年に比べ自己有用感は上がっているが、区と比べるとまだ不足している。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
PBS（ポジティブな行動支援）による自己肯定感・有用感向上	区学力調査・生徒意識調査の関連項目の肯定的な割合 80%以上	①校内研修 ②小中連携研修 ③生徒会活動の充実 ④ボランティア活動の充実	良いところがあるや、頼られている、感謝されたことがある等のアンケート結果は、それぞれ、72.5%、46.1%、64.2%となっており、80%に届かなかった。	学校生活で認められたり感謝の言葉を言われたりする場面を、意図的に増やしていくことが必要。	△
キャリア教育の充実	区学力調査・生徒意識調査のキャリア形成意欲についての設問 70%以上	①総合的な学習の時間等における計画的なキャリア教育の充実 ②外部講師を招いた授業の充実	将来の夢や目標をもっているか、実現のために努力しているかの設問は、それぞれ 68.3%、61.2%であった。	キャリア教育を中心とした外部講師の招へいなど、取組めていたので、次年度の数値は上がっていると考えられる。	△
教育相談の充実	①不登校生徒の出現率を前年度比-1point ②区意識調査の「学級の人に支えられている」等の肯定的回答 80%以上	①担任も含めた全ての教職員による 2 者面談の実施 ②教育相談部会の実施（毎週） ③SC 等との連携	①11 月現在の出現率は、昨年度が 8.6%、本年度が 6.78%であったため、-1.9point であった。 ②アンケート結果は 83%であった。	生徒一人一人の見取りや教育相談部会の充実により、不登校出現率の低下等の結果が表れている。	◎
WEBQU の有効活用	WEBQU の結果、2 回目が学校満足度上昇	WEBQU 実施時の各学年での研修及びアセスメント（年 2 回）	本年度の、満足であると答えた生徒数は、1 回目は 260 人であったのに対して、2 回目は 275 人であった。	満足的人数が増えたため、不満足も-5 人となっており、PBS の取組の成果が表れている。	◎

重点的な取組事項－3		ICT 機器及び学校図書館の有効活用			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
ICT 機器の活用及び学校図書館の活用による「主体的・対話的で深い学び」の実現		区学力調査の「自ら学ぶ力」についての関連設問で肯定的な回答 70%以上	AI ドリルで苦手な問題をとけるようになったという問いに対して、57.1%が肯定的な回答であった。	自ら ICT 機器を使って課題解決をさせていく場面と意図的・計画的に行っていく必要がある。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
AI ドリル有効活用	①生徒活用率 100% ②生徒アンケートで、活用したという回答 80%以上	①放課後の AI ドリルの時間の設定 ②授業や家庭学習での活用促進	①AI ドリルタイム時の 1 人当たりの回答問題数平均 49.19 であった ②10 月の生徒アンケートでは 61.3%であった。	①問題数から取組めている状況が確認できる ②2 月アンケートの結果を見定めていきたい。	○
授業での活用	①生徒アンケートで、授業で ICT 機器を活用していると答えた割合 80%以上	①管理職による授業観察 ②ICT 支援員や担当教員による活用提案	10 月の生徒アンケートでは、61.3%であった。	ICT を活用した授業は教科によって差がみられるが、上昇した。	○
学校図書館の活用	①生徒の貸し出し冊数前年度比+5point ②各教科における学校図書館利用を年 1 回以上	①学校司書を中心とした学校図書館の充実 ②各教科で授業利用の設定	①年度末数値で確認する ②2 月ヒアリングで確認する	学校図書館をの活用は増加しているが、さらに活用していきたい。	○